

宮城県商工地区中小企業景況調査報告書

2024年1月～3月期

目次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2024年5月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2024年1月～3月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 149企業

2. 調査対象期間

2024年1月～3月期を対象として、調査時点は2024年3月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	149

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期（2024年1月～3月期）の調査において、産業全体（全産業）の業況D I（前年同期との比較D I、以下同じ）は、前期より4.3ポイント改善し△25.2（前期△29.5）となった。産業別では、製造業が△32.3（前期△21.2）で11.1ポイントの悪化、建設業は△25.0（前期△20.8）で4.2ポイントの悪化、小売業は△27.9（前期△51.1）では23.2ポイントの大幅改善、サービス業でも△18.4（前期△20.4）と2.0ポイントの改善となった。

来期見通しでは、製造業、建設業で悪化する一方、小売業、サービス業では改善する見通しとなっている。

表-1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 29.5	△ 25.2	△ 27.9
製造業	△ 21.2	△ 32.3	△ 45.1
建設業	△ 20.8	△ 25.0	△ 33.3
小売業	△ 51.1	△ 27.9	△ 25.6
サービス業	△ 20.4	△ 18.4	△ 16.3

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業が18.2%で前期比6.1ポイント増加、建設業は12.5%で前期比8.3ポイント減少、小売業では9.3%で前期比2.3ポイント減少、サービス業でも10.2%と前期比1.8ポイントの減少であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べて建設業、小売業で横ばい、製造業で減少、サービス業で増加する見通しとなっている。

表-2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	12.1	18.2	3.0
建設業	20.8	12.5	12.5
小売業	11.6	9.3	9.3
サービス業	12.0	10.2	12.2

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2024年3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2023年12月調査）と比較し、「製造業がマイナス1で前期比3ポイント低下、非製造業はプラス13で前期比1ポイント低下。「能登半島地震や一部自動車メーカーの不正の影響等により業況判断は悪化とする一方、価格転嫁の進展や、インバウンド需要が引き続き堅調であることなどを背景に小売やサービス業の景況感是好調の見通し」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、前期との比較では製造業、小売業、サービス業で改善、建設業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業で全国以下・東北以上、建設業で全国・東北以下、小売業、サービス業で全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 7.4	△ 11.6	△ 21.7	△ 28.6	△ 33.4	△ 27.3
建 設 業	△ 14.3	△ 15.9	△ 20.0	△ 26.6	△ 16.7	△ 29.2
小 売 業	△ 17.6	△ 23.2	△ 29.9	△ 32.9	△ 32.6	△ 7.0
サービス業	5.1	△ 3.7	△ 0.6	△ 7.6	△ 2.0	0.0

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、前期との比較で製造業、小売業で改善、建設業で横ばい、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業、建設業で全国・東北以下、小売業で全国以下・東北以上、サービス業で全国以下・東北と同水準であった。

表－4 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.0	△ 22.0	△ 28.8	△ 27.8	△ 35.5	△ 28.1
建 設 業	△ 25.3	△ 27.3	△ 31.0	△ 35.7	△ 37.5	△ 37.5
小 売 業	△ 33.8	△ 34.6	△ 41.5	△ 39.9	△ 39.5	△ 37.2
サービス業	△ 23.2	△ 26.5	△ 26.7	△ 33.4	△ 30.6	△ 33.4

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2024年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業が△12.1ポイント、建設業で△12.4ポイント、小売業で△11.6ポイント、サービス業では△8.1ポイントと全業種で悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△12.6ポイント、小売業で△2.3ポイントの悪化となり、建設業で横ばい、サービス業では8.4ポイントの改善の見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国で改善・宮城で悪化、採算でも全国で改善・宮城で悪化の見通し。建設業では売上は全国・宮城で悪化、採算では全国で改善、宮城で横ばいの見通し。小売業では売上が全国・宮城で悪化、採算では全国で改善・宮城で悪化の見通し。サービス業では売上が全国で改善・宮城で悪化、採算では全国・宮城で改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 11.6	△ 8.9	△ 27.3	△ 39.4
建設業	△ 15.9	△ 17.4	△ 29.2	△ 41.6
小売業	△ 23.2	△ 23.4	△ 7.0	△ 18.6
サービス業	△ 3.7	△ 1.9	0.0	△ 8.1

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 22.0	△ 15.6	△ 28.1	△ 40.7
建設業	△ 27.3	△ 23.4	△ 37.5	△ 37.5
小売業	△ 34.6	△ 29.9	△ 37.2	△ 39.5
サービス業	△ 26.5	△ 19.4	△ 33.4	△ 25.0

2. 県下産業別の景況

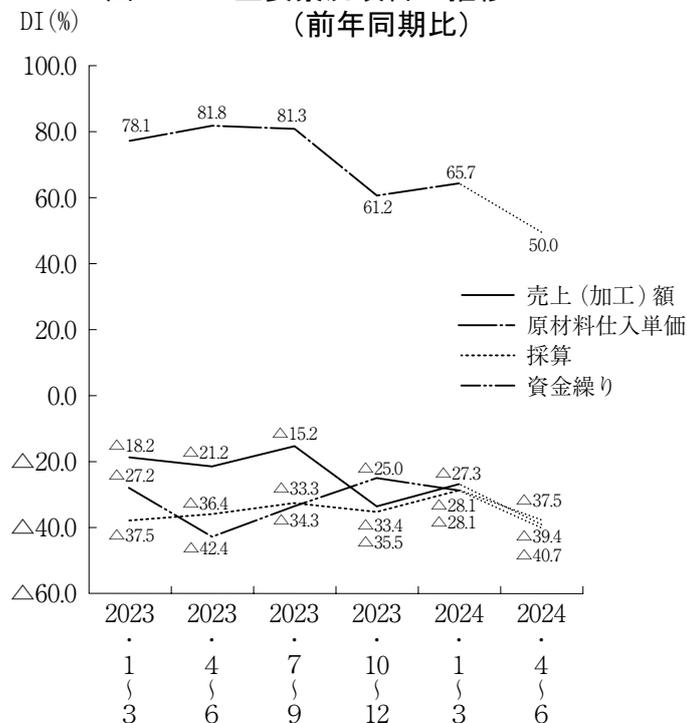
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△27.3（前期△33.4）となり前期比6.1ポイント改善、採算D Iでは今期△28.1（前期△35.5）で同7.4ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△28.1（前期△25.0）で同△3.1ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期65.7（前期61.2）と4.5ポイントの増加となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



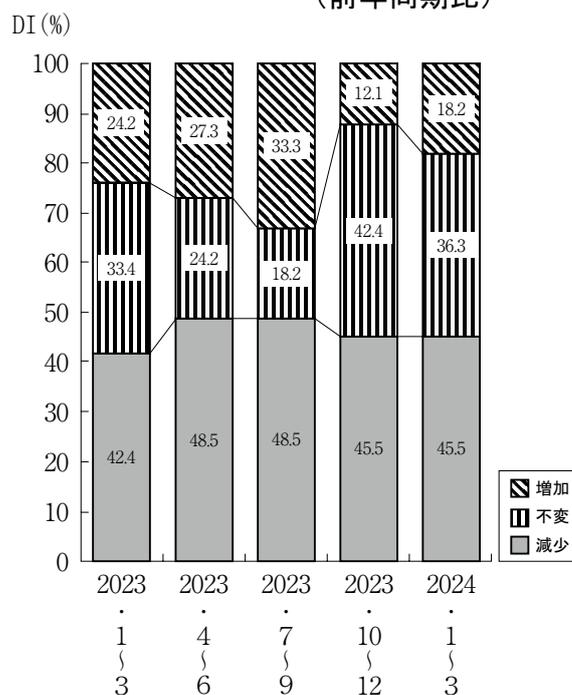
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（加工）額

「増加」と回答した企業は、全体の18.2%（前期12.1%）で6.1ポイントの増加、「減少」と回答した企業は45.5%（前期45.5%）で横ばいだった。

その結果、売上（加工）額D Iは△27.3（前期△33.4）となり、前期比6.1ポイントの改善となった。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

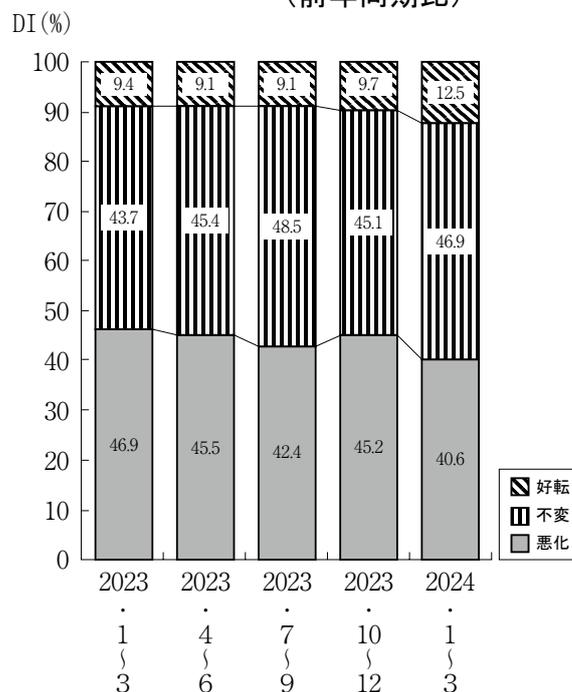


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の12.5%(前期9.7%)で2.8ポイント増加、「悪化」と回答した企業は40.6%(前期45.2%)で4.6ポイント減少した。

その結果、採算DIは△28.1(前期△35.5)で7.4ポイントの改善となった。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



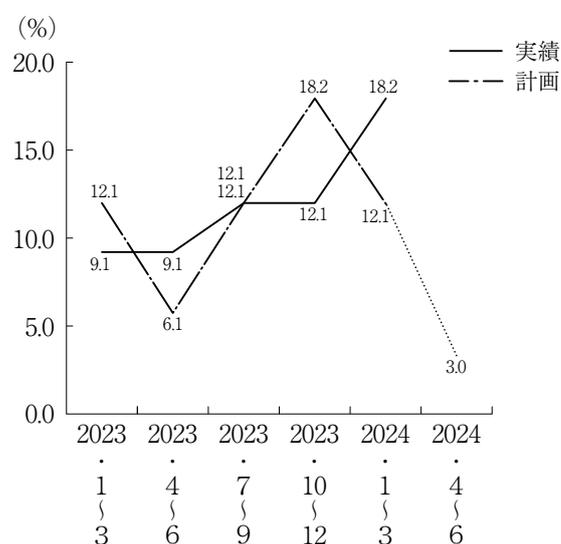
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の18.2%(前期12.1%)で前期と比べ6.1ポイント増加した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の3.0%で、その設備内容は、生産設備、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

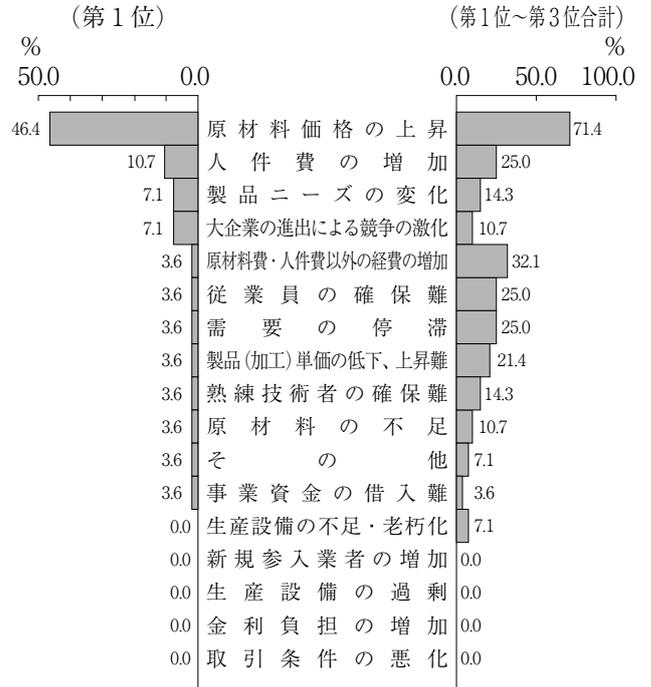


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」で46.4%、次いで「人件費の増加」10.7%、「製品ニーズの変化」「大企業の進出による競争の激化」が同率7.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「原材料価格の上昇」が71.4%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「原材料費・人件費以外の経費の増加」が32.1%、「人件費の増加」「従業員の確保難」「需要の停滞」が同率25.0%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」が21.4%、「製品ニーズの変化」「熟練技術者の確保難」が同率14.3%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



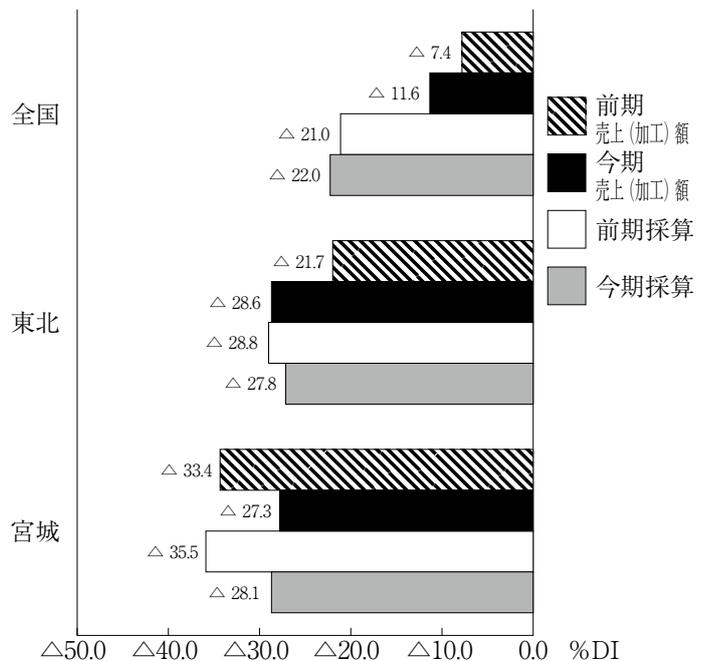
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で、売上（加工）額DIは全国、東北で悪化、宮城で改善であった。

採算DIでは全国で悪化、東北、宮城で改善であった。

本県回答事業者からは「以前に比べ原材料費価格が落ち着いてきた」、「前年より人出が戻ってきた」（食品製造）とする一方、「購入個数の減少」（菓子製造）、「元請からの受注減」（金属加工）、「固定費上昇が続き採算割れが懸念」（機械加工）、「原材料等の上昇で賃上げが困難」（飲食料品製造）などのコメントが寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



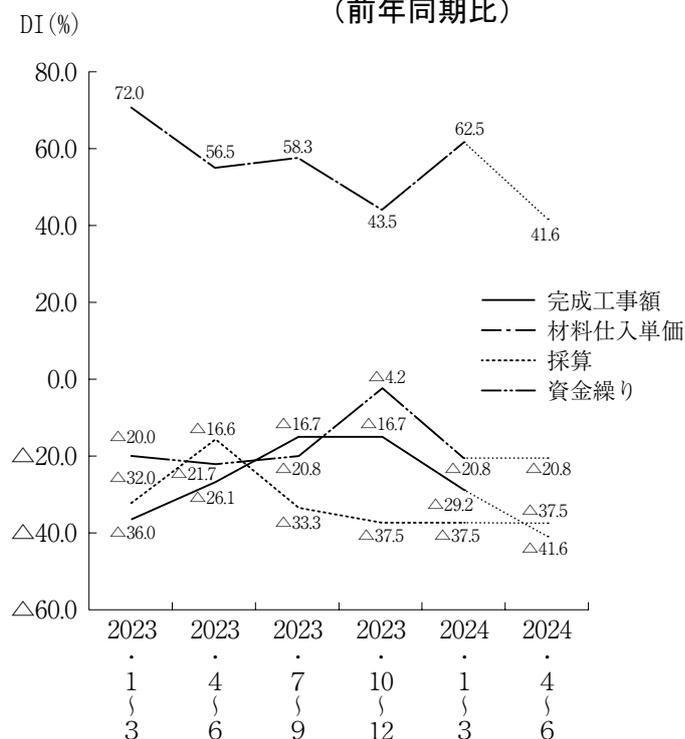
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△29.2（前期△16.7）となり前期比△12.5ポイント悪化、採算D Iでは今期△37.5（前期△37.5）で横ばい、資金繰りD Iでは今期△20.8（前期△4.2）となり、△16.6ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 62.5（前期43.5）と 19.0ポイントの増加となった。

図 2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



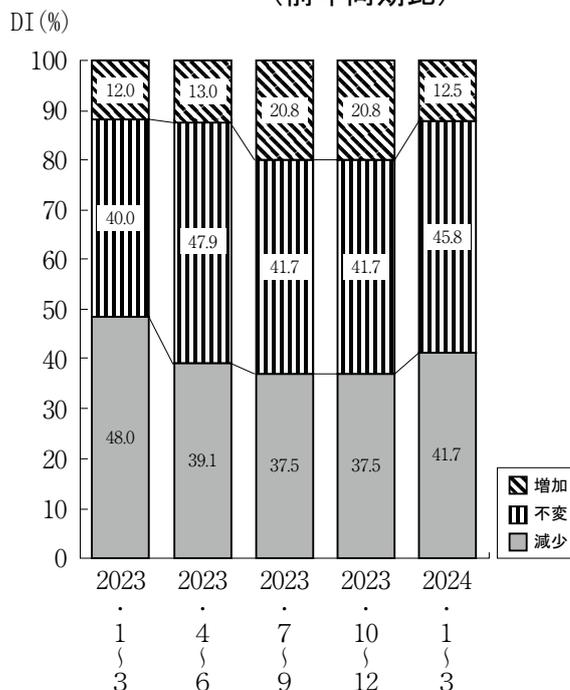
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の12.5%（前期20.8%）で8.3ポイントの減少、「減少」と回答した企業は41.7%（前期37.5%）で4.2ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△29.2（前期△16.7）となり、前期比△12.5ポイントの悪化となった。

図 2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

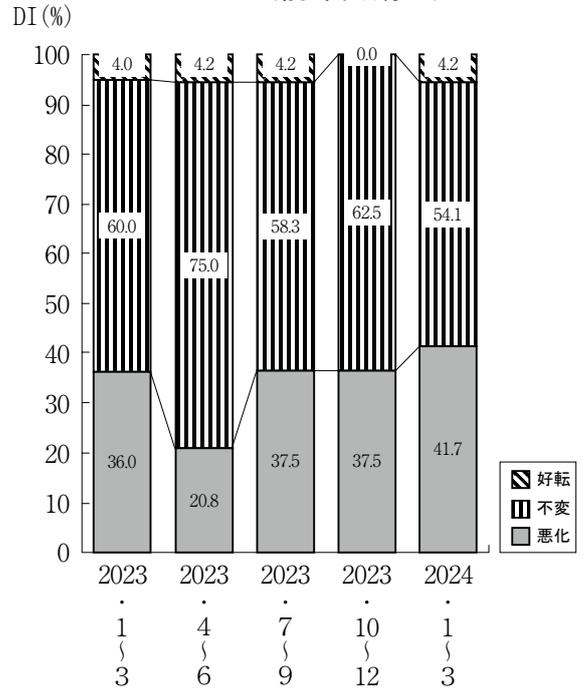


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 4.2% (前期 0.0%) で 4.2 ポイントの増加、「悪化」と回答した企業は全体の 41.7% (前期 37.5%) で 4.2 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△37.5 (前期△37.5) となり横ばいとなった。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



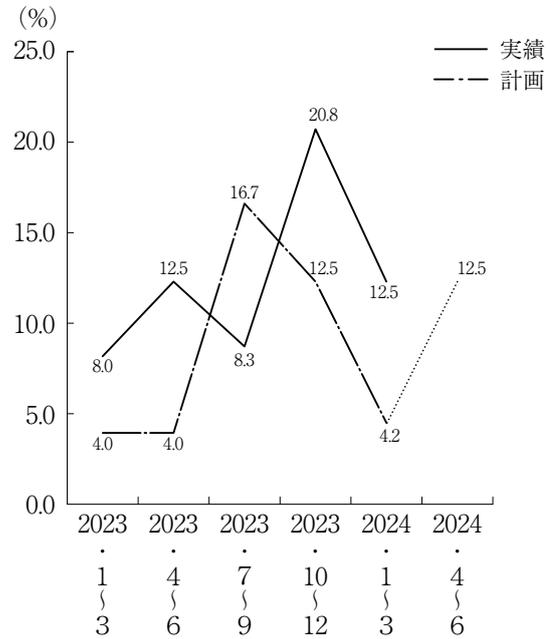
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 12.5% (前期 20.8%) で前期と比べ 8.3 ポイント減少した。

その設備内容は、土地、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.5% で、その設備内容は、建設機械、車両・運搬具となっている。

図 2-4 設備投資の状況

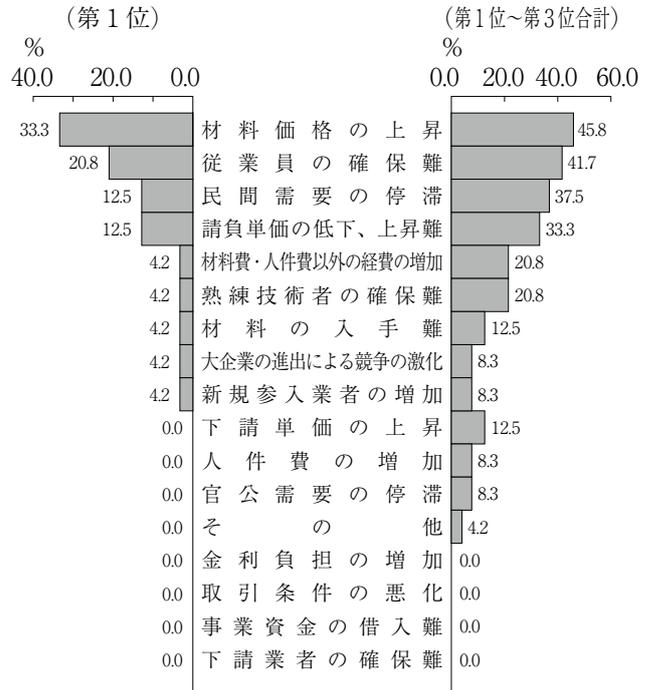


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」で33.3%、次いで「従業員の確保難」20.8%、「民間需要の停滞」「請負単価の低下、上昇難」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が45.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」が41.7%、「民間需要の停滞」が37.5%、「請負単価の低下、上昇難」が33.3%、「材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」が同率20.8%、「材料の入手難」「下請単価の上昇」が同率12.5%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



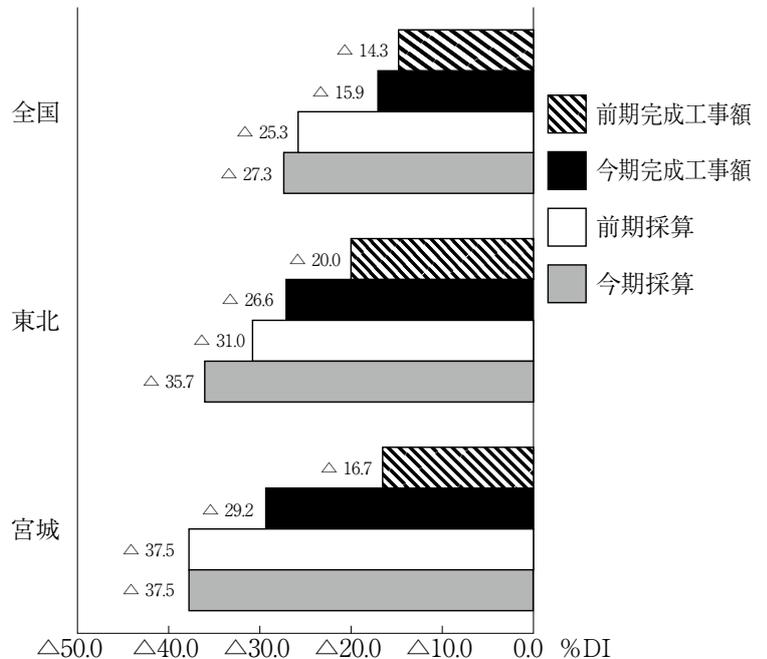
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額DIは全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較では全国、東北で悪化、宮城は横ばいであった。

本県回答事業所からは「全体工事ではなく部分工事のみの受注が増加」（建築板金）とする一方、「復興事業等の公共工事の減少により元請受注が難しい」（土木工事）、「資材高騰の影響を受け民間需要が落ち込んでいる」（リフォーム工事）などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



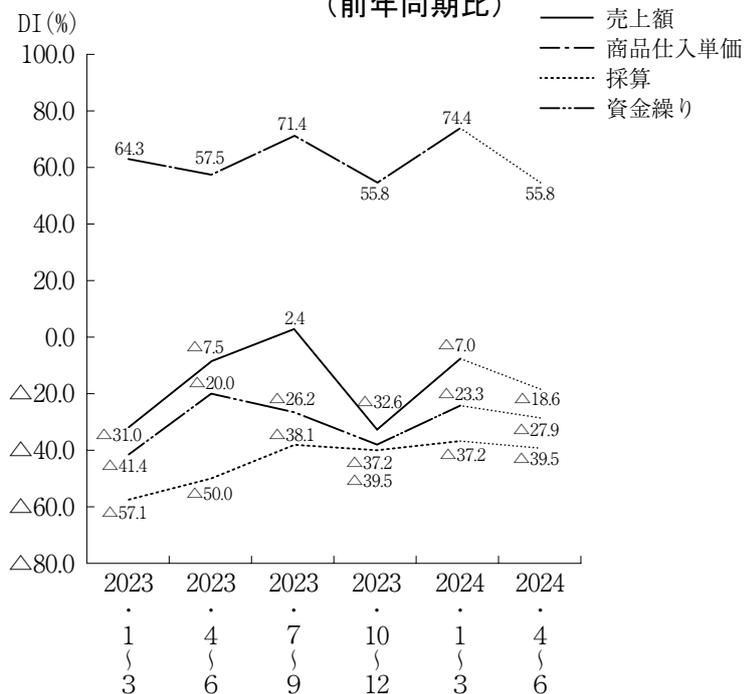
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△7.0（前期△32.6）と前期より25.6ポイント改善、採算D Iでは今期△37.2（前期△39.5）で2.3ポイント改善、資金繰りD Iでは今期△23.3（前期△37.2）で13.9ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期74.4（前期55.8）となり、18.6ポイントの増加となった。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



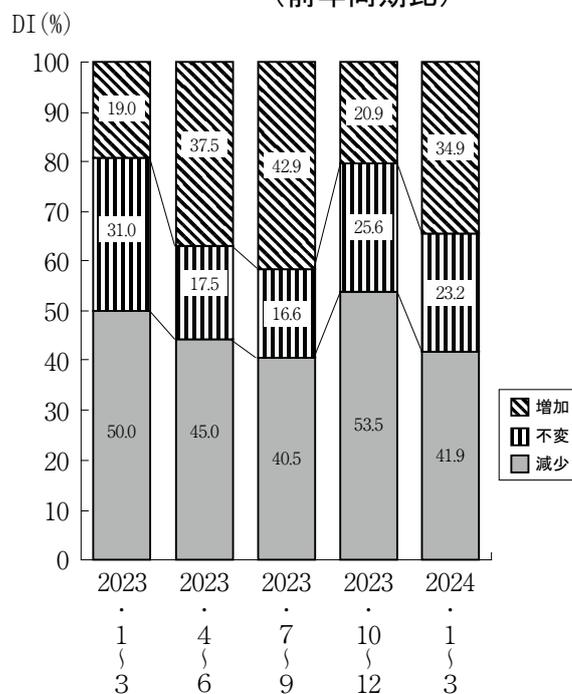
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の34.9%（前期20.9%）で14.0ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の41.9%（前期53.5%）で11.6ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△7.0（前期△32.6）と前期より25.6ポイントの改善となった。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

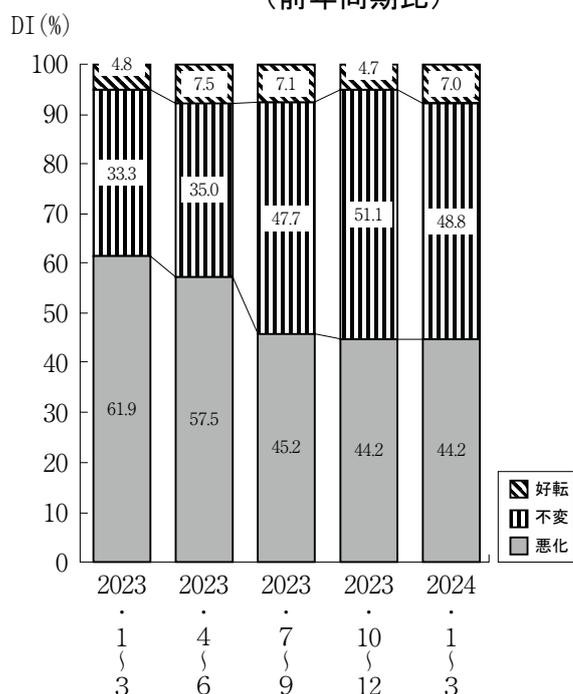


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の7.0%（前期4.7%）で2.3ポイント増加、「悪化」の回答は、今期は全体の44.2%（前期44.2%）で横ばいだった。

その結果、採算DIは今期△37.2（前期△39.5）で、前期より2.3ポイントの改善となった。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



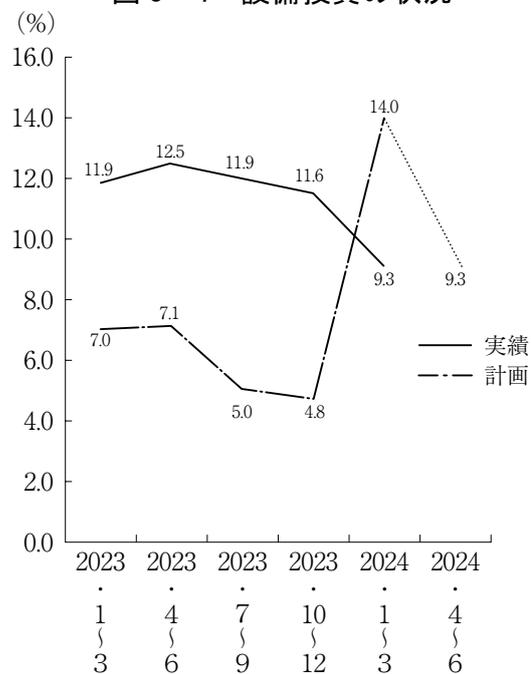
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の9.3%（前期11.6%）で前期比2.3ポイントの減少となった。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.3%で、その設備内容は、土地、店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図3-4 設備投資の状況



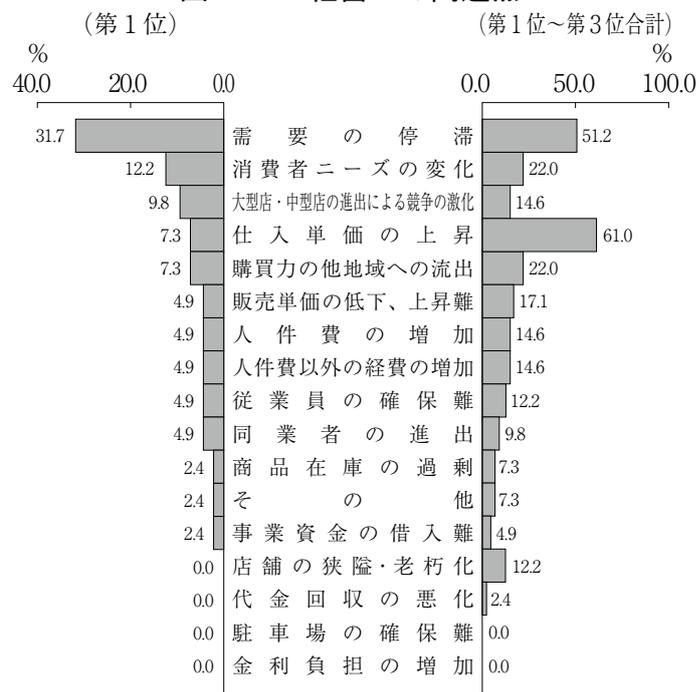
(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が31.7%、次いで「消費者ニーズの変化」が12.2%、

「大型店・中型店の進出による競争の激化」が9.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「仕入単価の上昇」が61.0%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が51.2%、「消費者ニーズの変化」「購買力の他地域への流出」が同率22.0%、「販売単価の低下、上昇難」が17.1%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」「人件費の増加」「人件費以外の経費の増加」が同率14.6%、「従業員の確保難」「店舗の狭隘・老朽化」が同率12.2%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



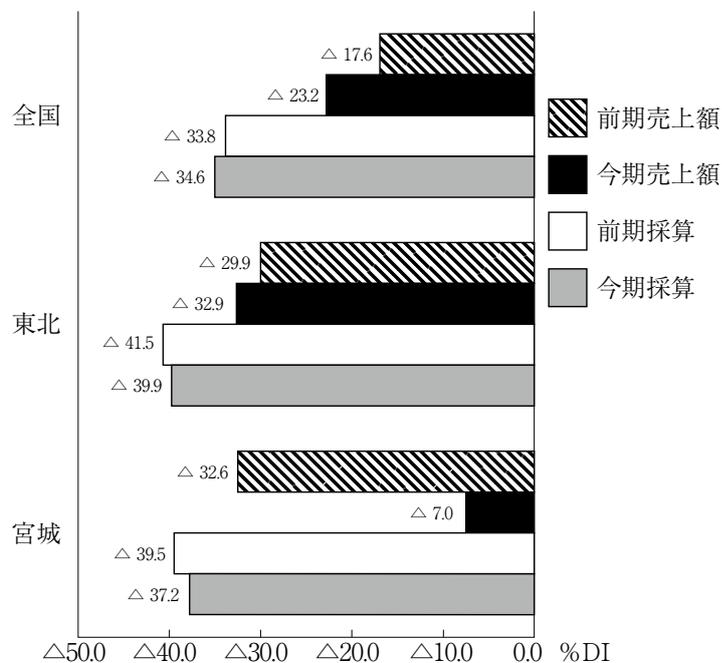
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算DIの比較では全国で悪化、東北、宮城は改善であった。

本県回答事業所から「外売りが増加」「来店数が好調」（生鮮食品）、「前期に比べ客足が戻ってきた」（身の回り品）とする一方で、「仕入単価の上昇分を価格転嫁できない」（食料品）、「需要の停滞、仕入単価の高騰により業況は厳しい」、「来店頻度が低下」（飲食料品）、「暖冬等の影響により季節商品へのニーズ対応に苦慮」（身の回り品）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



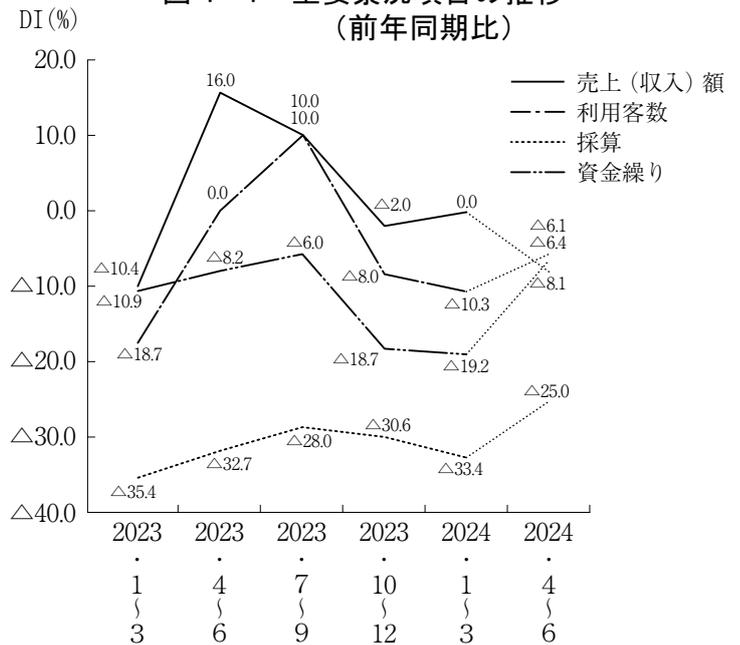
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上(収入)額DIは今期0.0(前期△2.0)で2.0ポイント改善、採算DIは今期△33.4(前期△30.6)で△2.8ポイント悪化、資金繰りDIでは、今期△19.2(前期△18.7)で△0.5ポイント悪化した。

利用客数DIは、今期△10.3(前期△8.0)で2.3ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



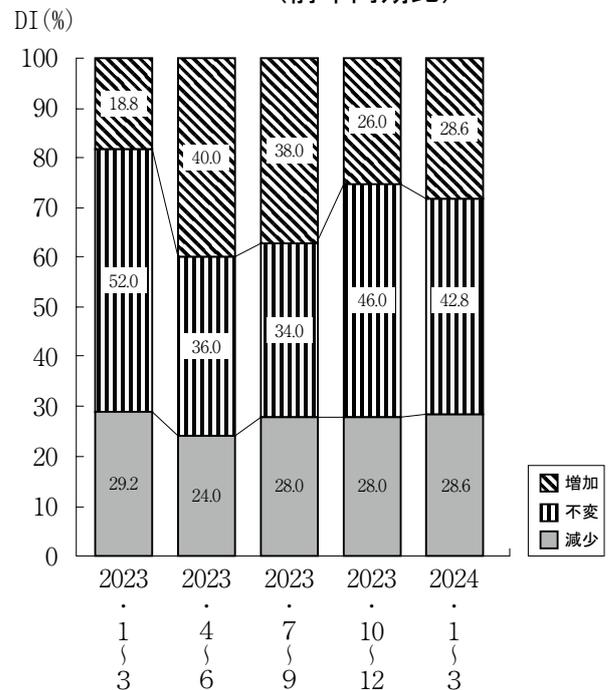
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の28.6%(前期26.0%)で前期より2.6ポイント増加、「減少」の回答は今期28.6%(前期28.0%)で0.6ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額DIは今期0.0(前期△2.0)で、前期より2.0ポイントの改善となった。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

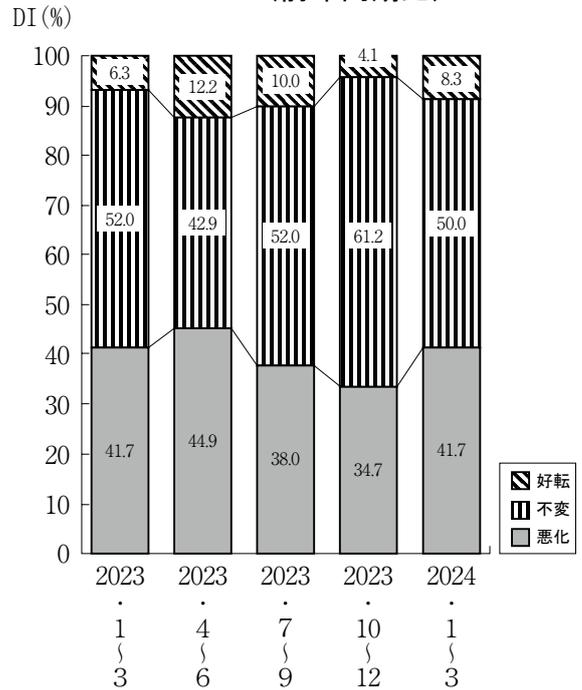


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の8.3%（前期4.1%）で4.2ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期41.7%（前期34.7%）と7.0ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△33.4（前期△30.6）で前期より2.8ポイントの悪化となった。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



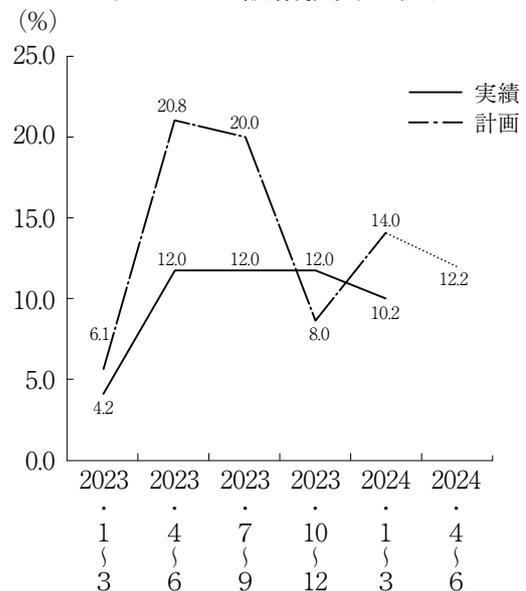
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の10.2%（前期12.0%）で、前期比1.8ポイントの減少となった。

その設備内容は、建物、サービス、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の12.2%で、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

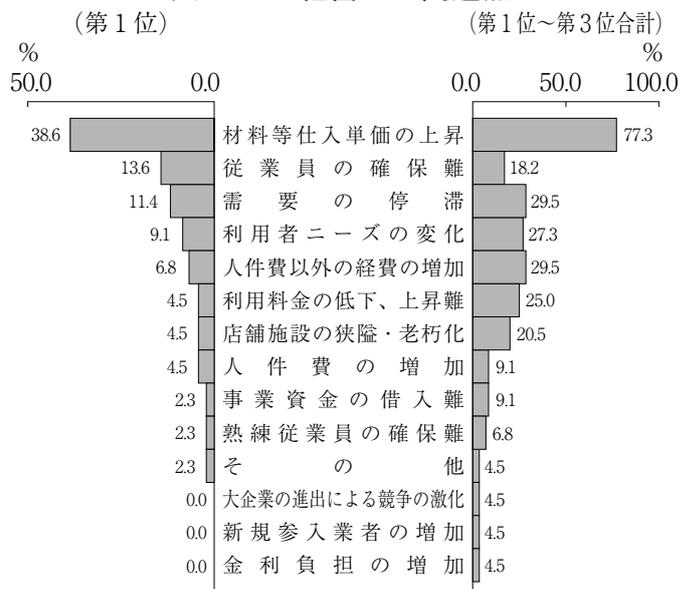


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料等仕入単価の上昇」が38.6%で、次いで「従業員の確保難」が13.6%、「需要の停滞」が11.4%であった。

重要度第1位から第3位合計では「材料等仕入単価の上昇」が77.3%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」が同率29.5%、「利用者ニーズの変化」が27.3%、「利用料金の低下、上昇難」が25.0%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が20.5%、「従業員の確保難」が18.2%、「人件費の増加」「事業資金の借入難」が同率9.1%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較で売上DIは、全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算DIの比較では全地域（全産業）で悪化となった。その悪化度は東北、全国、宮城の順であった。

本県回答事業所からは、「コロナ5類移行で一気に来店数が増えた」（飲食店）、「インバウンド需要で盛況感が増した」（観光業）とする一方、「人件費や原材料費等の上昇が収益を圧迫」、「施設の老朽化に伴い修繕費が増加」（飲食店）、「従業員不足により受注機会が損失」（観光業）などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

